

わかりやすい



リフォーム基礎知識

一級建築士 西田 恭子

(三井のリフォーム 住生活研究所 所長)

「おひとりさま」のすまいの選択肢

増える単身者住宅

近年、「おひとりさま」と呼ばれる単身者をテーマとした言葉がちょっとしたブームになっています。「ひとり」という寂しいフレーズの前後に「お」と「さま」をつけることで、避けて遠ざけておきたいものから、なんだか親しみをもって語られるようになりました。日本の人口が減り続ける中で、増えている家族形態として単身世帯があります。2005年で単身世帯は全体の29.8%でした。それが2030年には35%を超えると予想されています(図表1参照)。

核家族の解体・若年層の晩婚化・非婚化・配偶者の死別により、「おひとりさま」はますます増え続けると予想されています。今やだれにでも起こり得る「ひとり暮らし」は、身近で切実な問題です。「おひとりさま」の住宅における「世代」や「広さ」「建物形態」に注目し、ひとりで快適に暮らすために何が必要で、どこにポイントをおくべきかを、検証する必要があります。

問題はひとり暮らしだからといって、多くはファミリータイプと

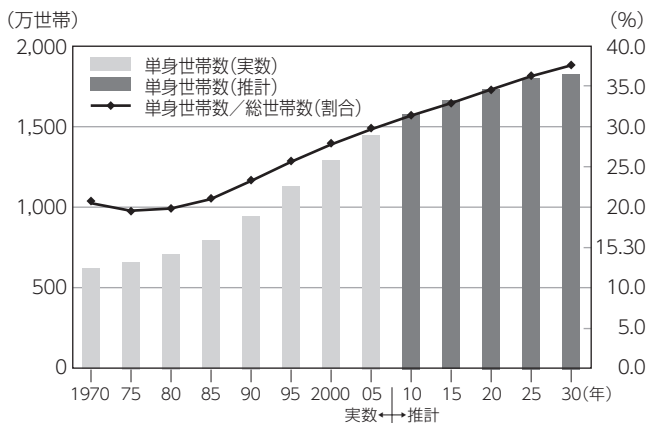
呼ばれる家に暮らしていて、必ずしも、ひとりが快適な住まいに住んでいない場合が多いということです。ひとりの方がリフォームしようとする住まいの面積は40㎡から100㎡以上と幅広く、マンションもあれば戸建て住宅もあります。たまたま住み続けた家は部屋数、動線、防犯など解決すべき内容を多く含んでいます。

面積によるしつらえの違い

単身者が快適に暮らす家の広さは決まっているとはいえません。

40㎡で十分という方がいるとおもえば、60㎡、80㎡と要望はさまざまです。個室を必要としない方もいれば、寝室は独立型としてリビングと分離したい方、また来客用の寝室を確保したい方と、日々の生活スタイルが同じ単身者でもさまざまだからです。面積が違えば収納方法も食事への考え方も変わってきます。40㎡・60㎡・80㎡によって変わるひとり暮らしの暮らし方の違いを図表2にしてみました。家の大きさによってしつらえが違ってくるのがわかることでしょう。

図表1 ● 単身世帯数の推移



出典:1970~2005年までの数値は「国勢調査」
2010~30年までの推計値は「日本の世帯数の将来推計(全国推計)・2008年3月推計」による

図表2 ● ひとり暮らしの面積別の暮らし方の違い

	40㎡	60㎡	80㎡
形態	ワンルーム	1LDK	2LDK~3LDK
寝室	オープンタイプ	セミオープンタイプ	独立室
収納	クローク	クローゼット	クローゼット+シューズクローク
書斎	なし	コーナータイプ	独立室
食卓	キッチン一体型	食卓カウンター	ダイニングセット
リビング	マイチェア	ソファセット(2人掛け)	ソファセット(3人掛け以上)
宿泊室	なし	なし	あり
キッチン	対面式(カウンター1,800mm)	対面式(カウンター2,100mm)	対面式(カウンター2,400mm)
水回り	洗面トイレ一体型	トイレ独立型	トイレ独立型

これからの単身者住宅提案

だれでも最後はひとりという漠然とした不安感を払拭し、安心して楽しみながら最後まで暮らし続ける家づくりの提供が求められています。

若年層のひとり暮らしには社会的な生活基盤とこれからの人生を楽しむための家づくりが大事となり、高齢者にとっては介護を含むひとりで暮らす心構えと、近居・隣居を念頭においた大きな意味の家族の中の自分、地域の中の自分を考えた家である必要があるようです。

ひとり暮らしだからこそ人が集まれる空間も大事になります。ひとりの終の住処は女性の問題と思われがちですが、平成21年度版高齢社会白書によると、男性のひとり暮らしが1980年から

2005年には倍以上となり、これからも増えることが見込まれています。どの家で最終章の住まいにするのかを踏まえて、リフォームで楽しく暮らす工夫をしつらえることが大切でしょう。